

編者・著者紹介

阿久井 康平

あきい かつひら

富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科助教
1984年鹿児島県霧島市生まれ、兵庫県西宮市育ち。明石高専・同専攻科、大阪市立大学大学院修士課程修了後、中央復建コンサルタンツ株式会社に入社し、都市計画・デザイン業務、社会基盤施設的设计業務に従事。大阪市立大学大学院修士課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員DC2・PDを経て、2017年1月より富山大学大学院理工学研究部(工学)特命助教。2018年4月より都市デザイン学部都市・交通デザイン学科助教。専門は都市空間計画・デザイン、景観論、都市・地域計画、都市形成史など。主な受賞歴として2017年度前田工学賞など。

鳥越 けい子
とりごえ けいこ

青山学院大学総合文化政策学部教授
1955年東京生まれ。東京藝術大学音楽学部楽理科卒・同大学院音楽研究科音楽学専攻修了。大阪芸術大学大学院より博士(芸術文化学)。専門はサウンドスケープ研究とその考え方の現代日本社会における展開。「サウンドスケープ/形あるもの・見えるモノを超えた環境文化」をテーマに、都市や暮らしをめぐる各種実践と研究に取り組む。富山県下でのデザインプロジェクトには、立山博物館野外施設(六角鬼文監修)「まんだら遊苑」音環境計画がある。著書に『サウンドスケープ―その思想と実践』『サウンドスケープの詩学』他。

萩野 紀一郎
はぎの きいちろう

富山大学芸術文化学部准教授、建築家
1964年東京生まれ。1987年東京大学卒。フルブライト奨学生として1994年ペンシルベニア大学大学院修了。1997年東京大学にて工学博士。香山アトリエなどを経て1998年萩野アトリエ設立。東京、フィラデルフィアで、設計・教育活動後、2004年能登に移住。住宅やオフィス・店舗の設計から、土蔵や古民家の保存再生の設計やワークショップ、里山のくらしやライフスタイルの実践を試みている。金沢工業大学・金沢美術工芸大・ナシール建築大学などで非常勤講師を歴任。

林 匡宏

はやし けんこう

Commons fun代表、合同会社loka代表、NPO法人E.S.C.S代表、ミスベリング江別代表
1983年大阪府吹田市生まれ。2008年筑波大学大学院を修了後、(株)日建設計、(株)北海道日建設計にて都市計画・都市開発コンサルティング等に従事。2013年に札幌市立大学大学院博士後期課程で博士論文を執筆し始めたことを契機にNPOを設立し、札幌近郊の河川・道路・空き家等を活用したエリアマネジメントや社会実験を企画するようになる。近年は札幌都心部の暫定敷地や空きビル、商店街などでシェアオフィスやゲストハウスなど継続的な事業運営を行う。議論の内容を即時にイラスト化する「ライブドローイング」という手法を用いて様々なワークショップや検討の場でファシリテーターを務める。

藪谷 祐介

やぶたに ゆうすけ

富山大学芸術文化学部講師
1986年三重県生まれ。筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了。札幌市立大学大学院博士後期課程単位取得退学。修士(デザイン学)。一級建築士。茨城県デザインセンター、株式会社河野正博建築設計事務所、札幌市立大学教育支援プロジェクトセンター特任助教を経て、2018年より現職。専門はコミュニケーションデザイン、建築計画。主な受賞歴は「いばらきデザインセレクション2010審査員奨励賞」、「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ優秀賞」等。

藪谷 智恵

やぶたに ちえ

文筆家・着物コーディネーター
1984年神奈川県生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業。ユネスコ無形文化遺産・結城紬の産地問屋在職中に、産地初の小売店を立ち上げる。現在は手仕事に深く関わる仕事を通じて得た経験をもとに、人と自然の関係について探求しながら文章を書いている。2018年3月に出産。女兒の育児中。
cheyabutan.com

横山 天心

よこやま てんしん

富山大学芸術文化学部准教授
東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程満期退学(2006年)、博士号(工学)取得(2008年)、富山大学芸術文化学部助教を経て、2010年4月講師、2016年3月より現職

島添 貴美子

しまぞえ きみこ

富山大学芸術文化学部准教授
1969年生まれ。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了、博士(音楽学)。2006年富山大学芸術文化学部講師。2011年より現職。専門は民族音楽学、伝統文化論。特に日本の民謡・民俗芸能を研究対象とする。著書は『民謡からみた世界音楽』(共著 ミネルヴァ書房、2012年)、『富山の祭り』(共著 桂書房、2018年)ほか。2015年よりNHKラジオ第2で放送の「音で訪ねるニッポン時空旅」の解説役として出演中。